

常用集に当城を要見し居るなり
大なる徳とて古代の城を姓名未考天正十
八年より弘治五年と蒲生家当城あり
当城ハ田原家秀卿の末孫之弘治五年
飛彈守秀行よりて子孫以終を以年
弘治五年和記は詳之秀行の父氏卿没後
上校中細云成へて下代へ領之当城始
上州平井の城となり延文二年城後
封をせし城後より当城を以今を以し
當時十五万石よりて一郡の地

太平記二十九之巻芳賀を備入^禪可軍事の
系下に上校なりし城を以てしられども
徳倉たる弘安氏幼少より上校は懐育を
られしなり旧好格なりしと見られられ
別後先城後玉の守護職をよめて上校を
を以てされりしは時禪可ハ城後の玉の
護をてよりしは徳倉と忠の上校は見し
られなりて忠賞と補の玉をよめて
やありとて上校と芳賀と城後玉を合戦
はるなりなり禪可は折原なりと